

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和4年2月10日(木) 午後3時30分

閉 会 年 月 日

令和4年2月10日(木) 午後4時25分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務  
代 理 者 塚 田 展 子

委 員 重 田 誠

委 員 田 野 内 明 美

事 務 局 (説明員)

教育部長 小 見 幸 雄

学校教育担当部長 山 崎 幹 夫

教育総務課長 小 池 郁 生

社会教育課長 茂 原 久 美 子

文化財保護課長 角 田 眞 也

中央公民館長 藍 美 香

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 橋 爪 幸 雄

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 永 井 智 幸

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

|        |  |
|--------|--|
| 2月10日  | 会議に附した事件                               |
| 議案第5号  | 令和4年度高崎市教育行政方針について                     |
| 議案第6号  | 令和3年度高崎市一般会計補正予算（3月議会提出分）教育費見積書の提出について |
| 議案第7号  | 県費負担教職員の人事について                         |
| 報告連絡事項 | 令和3年度群馬県教職員表彰の受賞について                   |
|        | 令和3年度高崎市教育センター「春の教育セミナー」の開催について        |

## 高崎市教育委員会 2月定例会会議録

### 教育長（飯野眞幸）

これより、高崎市教育委員会 2月定例会を開会いたします。

この際、諸般の報告を申し上げます。神宮委員から、本定例会を欠席する旨の届出がありました。以上で諸般の報告を終わります。

それでは、議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定といたしまして、会期は、本日1日といたします。

日程第2 会議録署名人の指定といたしまして、会議録署名人に、重田委員と田野内委員を指名させていただきます。よろしく願いいたします。

日程第3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

### 教育長（飯野眞幸）

「なし」とのお声をいただきましたので、会議録はご異議なしと認め、原案のとおり承認いたします。

### 教育長（飯野眞幸）

それでは、本日の議事に入ります。

議案第5号「令和4年度高崎市教育行政方針について」を議題といたします。提案理由の説明をお願いいたします。

（小池 教育総務課長 説明）

### 教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、本案に対してご質問等ございますでしょうか。

### 教育長職務代理者（塚田展子）

資料10ページの「学校保健充実事業」で、薬物乱用防止講演会がこれまでも行われていたと思いますが、先日のニュースで、若者の市販薬の乱用が非常に多くなっていることを取り上げていました。かつては大麻や覚醒剤というのが多かったのですが、それらは少なくなり、逆に、市販薬の乱用やオーバードーズが問題となっているようです。この講演会の内容に、そういった変化も踏まえた提案をなされる予定でしょうか。

### 健康教育課長（長岡誠）

大麻や覚醒剤を含めて、オーバードーズなど、新しい危険ドラッグについても取り入れながら、薬の適切な服用についての薬物乱用防止講演会を開催しているところでございます。

### 教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

**委員（重田誠）**

非常に多岐にわたって、しっかりと取り組んでいると思いますが、目標と到達度、進捗率について、基本的に進捗がどのくらいだとか、目標がどのくらいだとか、数で表さないといけないところがあります。例えば、「学力アップ推進事業」の学力アップ大作戦では、参加者の目標は10,000人、中学生休日学習相談ステーションでは、参加者の目標は450人といった目標になっています。それは仕方がないのですが、人数目標にして、とにかく集めようとするのでは困ります。内部の充実度や満足度を反映できるように、数の上だけではなく、満足度も目標にしていかないと単なる数合わせになってしまいます。数値目標にするのか、満足度にするのか、その辺も考えておいたらどうでしょうか。

**教育総務課長（小池郁生）**

確かに、人数を目標値にしている事業がいくつかあります。重田委員のおっしゃるとおり、人数を示すだけに終わってしまうところがありますので、目標値として、満足度を含め、達成度を重視したものを考えていきたいと思います。

**教育長（飯野眞幸）**

その他にいかがでしょうか。  
（「なし」との声あり。）

**教育長（飯野眞幸）**

よろしいでしょうか。  
それではお諮りいたします。本案は原案のとおり決することでご異議ございませんでしょうか。  
（「異議なし」との声あり。）

**教育長（飯野眞幸）**

ご異議なしと認め、議案第5号は原案のとおり決しました。  
続きまして、議案第6号「令和3年度高崎市一般会計補正予算（3月議会提出分）教育費見積書の提出について」を議題といたします。提案理由の説明をお願いいたします。  
（小池 教育総務課長 から秘密会の申し入れ）

**教育長（飯野眞幸）**

ただ今、秘密会での審議の申し入れがありました。議案第6号の審議を秘密会とすることでご異議ございませんでしょうか。  
（「異議なし」との声あり。）

**教育長（飯野眞幸）**

ご異議ないようですので、秘密会といたします。

（秘密会）

教育長（飯野眞幸）

それでは、秘密会による審議を終了いたします。

教育長（飯野眞幸）

続く議案第7号は、新年度の人事に関する事項のため、関係者による秘密会での審議となりますので、先に報告連絡事項等に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議ないようですので、報告連絡事項「令和3年度群馬県教職員表彰の受賞について」の説明をお願いいたします。

（岡田 教職員課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。続きまして、『令和3年度高崎市教育センター「春の教育セミナー」の開催について』の説明をお願いいたします。

（永井 教育センター所長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。報告連絡事項は以上となります。

続きまして、事務局からその他の報告等がありますか。

学校教育課長（橋爪幸雄）

令和3年度各種音楽コンクール等の実績についてご報告いたします。お手元の資料をご覧ください。吹奏楽、マーチング、アンサンブル、合唱のそれぞれのコンクールにおいて、塚沢中学校、箕郷中学校、榛名中学校、高崎経済大学附属高校が、群馬県の選考で上位大会に進み、そこで優秀な成績を収めました。なお、合唱の部の群馬県声楽アンサンブルコンテストにおいて、塚沢中学校は金賞を受賞し、来月13日に関東のボーカルアンサンブルコンテストに出場する予定になっています。

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

**教育長（飯野眞幸）**

よろしいでしょうか。その他に事務局から何かありますか。  
（「特になし」との声あり。）

**教育長（飯野眞幸）**

次に委員の皆様から、ご意見、ご質問等ございますか。

**委員（重田誠）**

前回の定例会の際に、新型コロナの感染状況もフェーズが変わってきたという話をしました。その後、爆発的に感染が広がり、高崎市は今までクラスターがなかったのですが、クラスターや学級閉鎖が出ています。この1、2週間でピークアウトしてくると思うのですが、急速に減るかどうかは難しいので、まだまだ大変だと思います。ただ、皆さんご存知だと思いますが、オミクロン株は、今までのデルタ株とは感染の形式、発症の仕方も少し違っています。以前は、子どもは感染しにくかったのですが、オミクロン株は、ほとんど大人も子どもも同等に感染してしまい、インフルエンザと同じような感じで、学校でも十分感染するということが分かっています。しかも、デルタ株よりは発症が速いことも分かってきました。全国的に見ても小児科の入院数は増えていて、子どもは軽症なのですが、入院患者が増えてきたり、少し酸素投与が必要だったり、亡くなった子どもはいないのですが、ICUに入っている子どもも増えています。そういった意味では、感染者が増えると基礎疾患を持った子どもはいるので、その辺は少し気を付けないと問題が出てくるのかなと思います。

また、5歳から11歳までのワクチン接種が3月から始まります。これに関しては、かなり賛否両論があり、特に保護者が心配しています。高崎市は集団接種をしない方針なので、その辺で教育委員会が非難されることはないと思いますが、子どもは圧倒的に症状が軽いので、ワクチンを接種しなくて良いのではないかという意見がどうしても出ます。小児科学会や外来小児科学会など、色々な所でワクチンに対するコメントが出ています。日本では「接種するように」とは言っていないのですが、アメリカの小児科学会は、亡くなっている子どもが沢山いるので、ワクチンを必ず接種するようにという感じでした。日本の場合は、よく相談してくださいといった感じなので、保護者は迷うと思います。ただ、全体的な問題として、その部分が解決されないと学校生活が戻せないなので、ワクチンとして問題がなければ接種した方が良いと思います。世界的に見てもワクチンの副反応は、大きな問題がないと思うのです。高崎市では、おそらく3月7日くらいから、5歳から11歳までのワクチン接種を始めると思いますが、個別接種を小児科でやるような形になると思います。子どもがワクチンの接種に行く際、学校は普通に行かせるということになりますか。その辺はどういった対応でしょうか。

**健康教育課長（長岡誠）**

ワクチンの接種については、出席停止扱いですので、欠席にはなりません。

**委員（重田誠）**

欠席にならないということですね。ワクチンを接種する時は行っていいですよという感じで、もし熱が出て欠席扱いにならないということですね。

#### 健康教育課長（長岡誠）

そういう対応をしていきます。

#### 委員（重田誠）

小児科としては、問題がなければできれば接種していきたいと思います。

#### 教育長（飯野眞幸）

重田委員にお聞きしたいのですが、飲み薬の承認が迫っていますが、これが子どもたちに与える影響というのはどうですか。

#### 委員（重田誠）

最初に出た飲み薬などは、子どもには使えないものです。高齢者やハイリスクな患者に処方する薬なので、子どもに適用できるものはまだありません。塩野義製薬の飲み薬もまだ治験がされていないので、子どもはまだでしょう。今のところ、高齢者やハイリスクな患者が対象です。子どもは症状が軽いので、もう少し治験が増えて、薬も供給できて、全員に配っても良いという感じになってからです。私の患者でも何人か感染者が出ていますが、ほとんどが風邪の様な症状で、熱が出ても1日や2日で下がっています。ただ、喘息がベースにあると、そういう子どもは咳が長引いたりします。それでも肺炎になることはなく、軽症です。

#### 教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。他にはいかがでしょうか。

#### 委員（田野内明美）

先日、中学校2校から、やるベンチャー事業が行えなくなっているということで、キャリア講演会と職業講話のご依頼をいただきましたので、行ってまいりました。先生からのリクエストでは、子どもたちが自分の思いを伝えることがなかなか難しいこと、どうやって自分の気持ちを相手にわかってもらうようにするのか、その辺りに何かヒントがあったらお願いしたいということでした。相手が見えない中での仕事なのですが、仕事を通して自分の思いなどをどう伝えるかということ、いくつかのポイントにまとめてお話をさせていただきました。話すことと聞くこと、この2つがどちらもあってコミュニケーションが取れるという話をさせていただいた中で、1つ印象的だったことがあります。マスクをしていることで相手の表情がわからない、しぐさや顔の情報が半分隠れてしまうと、なかなか相手のことを読み取れないとすごく感じていまして、「今、マスクをしていて、そういうことはないですか」と呼びかけたところ、多くの生徒がすごく頷いていましたので、子どもたちも同じ思いがあるのかなと思いました。それは、たぶん友達と話をしている、その友達の感情が読み取れないとか、自分がどういうふうに話して良いのか、マスクをしていると、どうしても大きな声を出さないといけないので、そういうことに負担を感じているのかなといった印象を受けました。マスク生活がもう2年も続いて、長く会話をしてコミュニケーションを取ることが、少し子どもたちの中では少なくなっているのかな、また、そこに対して少しストレスを感じているのかなというのが、その講演会の中で感じたことでした。

#### 教育長（飯野眞幸）

お疲れ様でした。ありがとうございました。

こういう見地から「話をしてください」という教員の視点が良いですね。やはり、教員もそういう部分を大事にしていることが分かりましたし、その話を聞いた子どもたちも、きっと有意義だったと思います。今のようなマスク生活が人間関係を希薄化しているという部分があって、ただ、逆に言うと、しゃべらなくて済むので良いのだという、そういう声も一部あるのだそうです。塚田委員、その辺どうですか。

#### 教育長職務代理者（塚田展子）

大学生などもそうなのですが、話をしないこと、対話をしないことに慣れてしまい、むしろ対話することに抵抗を感じるというのです。大人の場合、自分の心の内を表現するので、そんな風を感じているということがわかるのですが、オンラインや遠隔授業をしているので、対面が非常に抵抗を感じるというようなことも出てきています。その辺のところ、これから色々な課題が出てくるのではないかなと思います。

#### 教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

#### 教育長職務代理者（塚田展子）

この間、テレビを見ていましたら、高崎市のオンライン授業について映像を交えての紹介がありました。高崎市の場合、陽性者になったとか濃厚接触者の場合には、登校できない児童・生徒のために、オンライン授業を行っているということで、とても丁寧に映像を流しながら、一方では授業をやって声掛けをして、「ここ分かるかな」という、そういう感じの映像が流れていました。スキルの高い授業、オンライン授業をやっている、そういう感じの印象を受けました。人の目に触れて、こういうのをやっていますよと伝えることは非常に大事だと思います。それで、これは数値では言えないと思うのですが、高崎市の小中学校の何割くらいがオンライン授業を行っているのか、比率としては結構多いのでしょうか。

#### 学校教育課長（橋爪幸雄）

オンラインの授業数そのものの数を調べたわけではないのですが、やはりコロナ不安でお休みにしている子ども、自主的に出席停止扱いでしているような子どもは若干いますので、どの学校でもそういう子どもに対しては、個別の対応でオンライン授業を積極的に進めているのが現状です。

#### 教育長（飯野眞幸）

基本的に、保護者からオンラインでやってほしいといったお話があった場合は、学校はその要望を受けて対応しています。小学校の低学年にいきなり全部の授業を流すというわけにはいかないと思いますが、発達段階に応じた取組はすべての学校でやっています。今、学級閉鎖等が少し出ていますので、その学校へ確認しましたら、すべての学校が、その学級閉鎖の期間はオンライン対応をしていたという報告がありました。



#### 教育長職務代理人（塚田展子）

もう1つ良いでしょうか。1週間くらい前の新聞に、教員不足の問題が出ていました。オミクロン株は、これから少し緩やかに減っていくのかも知れませんが、ステルスオミクロン、もっと強烈なオミクロンが、もしかしたらこの後ということを考えて時、私が心配するのは、同一の学校で教員が5、6人とか7人感染した場合です。これはお休みしなくてはならないのですが、実態を少し見ているので心配なのですが、どうやってやりくりするのだろうかと思っています。休校措置はとれない、とらないと昔は言っていますが、実際はやれないのではないだろうかと思うのです。そういうことも少し心配です。その辺は、教員数は充足しているのでしょうか。

#### 学校教育担当部長（山崎幹夫）

塚田委員がご指摘のとおり、今、教員がコロナで陽性になってしまうことが、実際に高崎市内でも起こっています。市教委から、まず校長、教頭に聞き取りをして、校内の体制を整えることができるかどうかを確認しています。少し足りないといった、そういう状況があれば、指導主事がすぐにその学校に向かい、校内の教員と協力して子どもたちを指導しています。併せて、給食室でも同様の案件が起きていますので、給食提供にあたっての献立表を健康教育課の職員が作成して学校を支え、子どもたちが通常の授業をできるように、連携をとって対応しているところです。

#### 教育長職務代理人（塚田展子）

ありがとうございます。なかなか教員増という話は出てこないですね。文部科学省もそういう話はしないのですが、これは子どもたちに良い教育を届けていくためには、こういう事態も想定していかないといけないと思います。教員の数が少ない、どこの県もどこの市町村もぎりぎりのようです。そういう意味では、こういう機会に少し余分に教員を採用しておくということです。皆様方がご苦労して、うまくやるように努力しても、できないものはできないという感じで、教員は絶対感染しないということはないのですから、その辺のところは少し取り上げてほしいのではないかなと思いました。

#### 教育長（飯野眞幸）

正常な学校経営が行われるようにやっていますが、教員に感染者が増えた場合には、学校を閉鎖するという、そういう場合も出てくるでしょう。あるいは、閉鎖しない場合は、代替の教員を確保したいのですが、人がいないので確保するのは至難の業です。ですから、そういう部分の問題が構造的にあります。教育長の団体などが国に要望を出して、もう少し教員の定数を増やしてほしいというお話をしているところです。財務省の承諾をなかなか得られないので、教員の数が増えていかないという状況があります。

#### 教育長職務代理人（塚田展子）

ありがとうございます。

**委員（重田誠）**

その辺に関して、教員の数自体は、今後の日本がどのくらい教育にリソースを割けるかということになると思います。実際には、もっと予算を増やした方がいいのですが、それはそれとして、学校の先生が感染してしまうということもあるのですが、1番問題なのは、幼稚園や保育園の子どもが感染して、家族が濃厚接触者になって仕事を休まないといけないケースの方が多くなっていることです。学校の先生は、かなり気を付けていますので、先生自体が感染するのはそれほど多くないかもしれません。オミクロンは感染力が高いのですが、オミクロン自体は、症状は軽いので、政府のほうも濃厚接触者の待機期間を短くしています。オミクロンやこの次の株で病原性が下がれば、今は2類感染症になっていますが、おそらく5類感染症に移行となれば、インフルエンザと同じになりますので、待機期間がなくなります。家族内では、ほぼ100パーセント感染すると言われていますが、実際には、防御していると家族内でも感染しないという例もあります。ですから、学校の先生の濃厚接触者に対する対応をどうするか、その辺をやりくりすれば、なんとかなる可能性はあります。

**教育長（飯野眞幸）**

民間事業所では、やはり陽性者であるとか、濃厚接触者で人数が欠けたときも正常な業務を行えるように計画を立ててやるということになっています。そういう意味では、教育界では、そうした部分の心配を払拭するような動きが必要なのだらうと思います。

**委員（重田誠）**

ただ人数がいないとできないですね。

**教育長（飯野眞幸）**

とにかく陽性者が職場復帰する期間と、濃厚接触者が復帰する期間では、濃厚接触者の方が長いのです。そういう矛盾もあって、やはり職場では大変な思いをしていかなければならないということです。各学校で教員が陽性になると、それから他の職員が濃厚接触者になってしまったという場合が出てくると、正常な教育活動が行えなくなってしまいます。ご心配をありがとうございました。

**教育長（飯野眞幸）**

他にいかがでしょうか。  
（「なし」との声あり。）

**教育長（飯野眞幸）**

よろしいでしょうか。  
それでは、議案第7号に戻ります。本件については、新年度の人事に関する事項ですので、秘密会により審議したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。  
（「異議なし」との声あり。）

**教育長（飯野眞幸）**

ご異議ないようですので、これより議案第7号を秘密会により審議いたしますので、関係者以外は退席をお願いいたします。

(秘密会)

**教育長（飯野眞幸）**

以上で予定していた議案の審査は終了いたしました。  
これをもちまして、教育委員会2月定例会を閉会いたします。  
大変ご苦労様でした。